

報告 4 : ラオスから (シリソンスック・スンダラ)

勝間 同じラオスからいらっしゃいましたシリソンスック・スンダラさんをお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

シリソンスック 皆様こんにちは。発表を始める前に、まず「難民を助ける会」にお礼を申し上げたいと思います。またアクセンチュアにもお礼を申し上げます。今日発表する機会を与えてくださった事、大変感謝しております。

シリソンスック・スンダラと申します。ここで 10 分ほど発表させていただきます。発表は 4 つの部分からなっております。まず自己紹介を致します。それから母国ラオスの紹介。そして私の活動、そして最後に今後の夢とメッセージという事でお話し致します。

シリソンスック・スンダラと申します。ラオスからまいりました。現在は日本の新潟県の国際大学で勉強をしております。日本に来る前はフランス大使館の経済貿易部で仕事をしておりました。また、障害を持つ子ども達のための小さな施設を運営しております。

ラオスの写真。ケンポンさんのほうのプレゼンテーションで既にご覧いただいたかと思いますが、こちらは戦勝記念碑です(p.80)。首都ビエンチャンを訪れますとこれが非常に目立つ所に建っております。フランス建築の影響を受けております。以前、ラオスはフランスの植民地でしたので、その影響があるわけです。パリの凱旋門との類似性に気付かれる方もいらっしゃるかと思います。

これは、首都の中の幹線道路の 1 つであります(p.80)。ここに写っている乗り物ですがトゥクトゥクという乗り合い自動車でありまして、ラオスではよく見られます。ラオス版のタクシーという事になりましょう。

首都ビエンチャンでの市場の様子です(p.81)。ここで食事をとることもできます。このプラスチックの袋の中には、ナンバンというデザートの材料が入っています。その主たる材料はココナッツミルクで非常に甘いデザートとなります。

私はラオスという小さな国から来ております。ラオスという国は人びとの親切さ、素朴さ、そして団結力で説明できると思います。それについては大変に誇りをもっております。しかしながら障害者をめぐる状況というのは非常に厳しいものがあります。人材また予算の制限から、提供できるケアサービスが非常に限られております。

障害者に関する私自身の活動ですが、脳性まひの子ども達の施設を設立し運営しております。脳性まひというのは一種の精神障害で、身体障害につながるものでもあります。なぜこのような活動を始めたのかという事ですが、自分の小さな息子が脳性まひを患っているからであります。ラオスにおいては息子が必要としているケアを受けられる制度が何もなくという事で自ら活動に乗り出しました。

私どものセンターでの活動の様子であります(p.83)。これは音楽療法のセッションを示しております。写っているのはクリストフさんです。フランス人のボランティアです。子ども達一人ひとりに楽器を演奏できるように教えています。そしてみんなで楽しく一緒に演奏して、お互い支え合う事ができるようにという事で教えているわけです。

これは理学療法のセッションの様子であります(p.83)。家族もその支援に参加できます。ここに写っている小さな子はティノ君です。ティノ君はまだ自分では歩くことができません。そこで彼の歩行能力を強化するためのプログラムを策定して、歩行練習に取り組むようにしております。正式な事業以外での場面でも、センターの先生は一人ひとりの能力に合わせて教えています。また各生徒の教育プログラムに沿って教育を行っています。これは入所した時に最初にプログラムを設定して、それに基づいて行うというものであります。デイケアですが、まず午前7時30分に生徒達が到着します。おやつ、お昼を与えてそしてお風呂に入れて、本を読み聞かせて、その後お昼寝という事になります。

この分野で仕事をしてきて、なかなか目標を達成できないという問題を体験しています。それは、現地スタッフの能力が限られていること、また予算が非常に不足していることが主たる理由であります。

障害を持つ子ども達が置かれている環境を変えるために、スタッフや家族に訓練するような施設を作りたい。そして訓練を受けた人達が、子ども達を支援できるようにしたいと考えております。

我々のケアを必要としている子ども達から私は勇気をもらっています。また努力を続けるスタッフの熱い思いにも勇気づけられています。また、こういった新しい施設が今後設立できるかもしれないという、その可能性も私を駆り立てます。

私の夢ですが、子ども達が精神的、肉体的に発達して、社会の中で家族と共に幸せな生活ができるということであります。全く障壁なく社会の一員となって幸せな生活ができるということが私の夢です。

ここで子ども達の家族と話をしています。これまでの活動について話し合っているわけです。センターでの教育が、どれぐらい効果的であったかという事を家族と共に振り返っているわけです。そして、この次にどういう事をしていこうかとお互いに話し

合っています。3ヶ月ごとに、こういった話し合いを持っております。

最後になりましたけれども、我々1人1人が思いやりをもって、努力を傾注して、様々な活動に参加して、弱い立場にいる子ども達を支援していくという事を呼びかけたいと思います。ご清聴ありがとうございました。ご質問があれば後ほどの質疑応答の時間にお答えしたいと思います。ありがとうございました。

勝間

シリソンスック・スンダラさん、どうもありがとうございました。



ラオスにおける障害者自立支援 Assistance to People with Disability in Lao PDR



2008年6月 June 2008

名前: シリソンスック・スンダラ

Name: Sirisomsouk SUNDARA



発表の流れ

- 1) 自己紹介 Self Introduction
- 2) ラオスの紹介 About My Home Country : Lao PDR
- 3) 私の障害者自立支援活動 My Activities
- 4) 今後の予定とメッセージ Plan and Messages



1) 自己紹介

Self Introduction

<報告の流れ>

- ➡ 1) 自己紹介 Self Introduction
- 2) 出身国の紹介 About My Home Country
- 3) 私の障害者自立支援活動 My Activities
- 4) 今後の予定とメッセージ Plan and Messages



こんにちは！ Hello!

私の名前は、
シリソンスック スンダラ
です。

ラオスから来ました。
今は日本の新潟で勉強しています。

My name is

Sirisomsouk Sundara

I came from Laos.

Now I'm studying in Nigata, Japan





2) ラオスの紹介

About My Home Country: LAO PDR

<報告の流れ>

- 1) 自己紹介 Self Introduction
- 2) 出身国の紹介 About My Home Country
- 3) 私の障害者自立支援活動 My Activities
- 4) 今後の予定とメッセージ Plan and Messages



ラオス基本情報

General Information of the Country



正式名: ラオス人民民主共和国

面積: 約24万km²

人口: 580万人(2006年)

首都: ビエンチャン

民族構成: 低地ラオ族(60%)、その他

宗教: 仏教

言語: ラオス語

出展: 外務省ホームページ









ラオス国情報
 Information of the Country

①ラオスの良いところ What can you be proud of in your country?
親切で思いやりがあり団結しているところ
 Kindness · Simplicity · Solidarity of people

②障害者を取り巻く環境
 What is the environment surrounding PWD in your country?
予算と人が不足しており、障害者へのケアが充分ではない。
 Limitation of care service for PWD, Because of budget limitation and shortage of human resources.




Association for Aid and Relief, Japan

3) 私の障害者自立支援活動

My Activities

<報告の流れ>

- 1) 自己紹介 Self Introduction
- 2) 出身国の紹介 About My Home Country
- 3) 私の障害者自立支援活動 My Activities**
- 4) 今後の予定とメッセージ Plan and Messages




Association for Aid and Relief, Japan

私の障害者自立支援活動(1)

My Activities (1)

①活動 Activities

脳性マヒの子どもたちの施設設立と運営

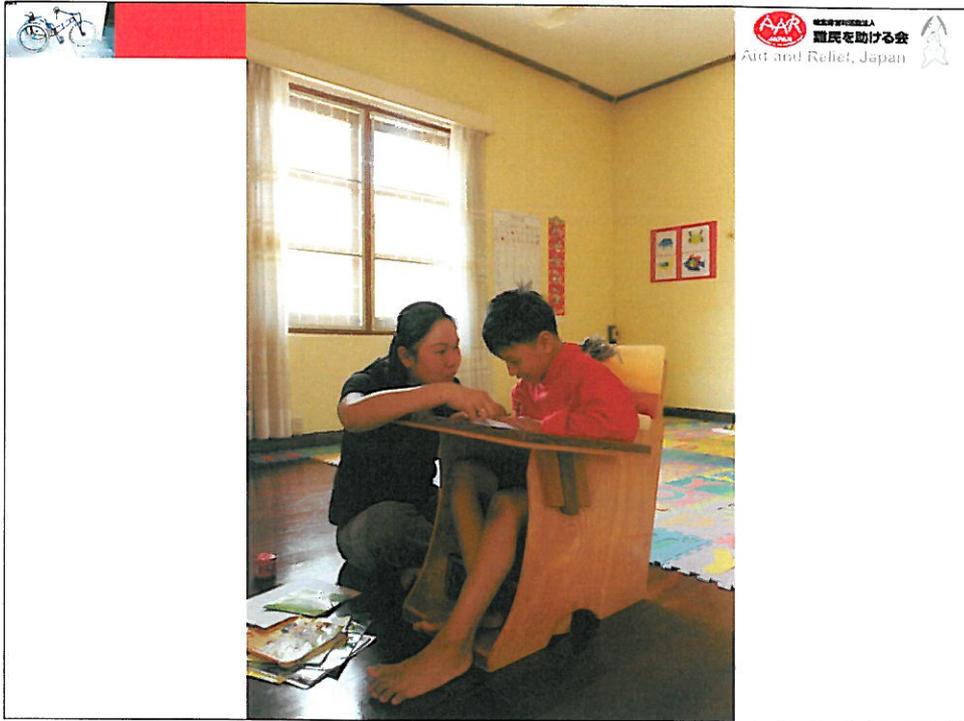
Establish and manage a small center for child with cerebral palsy.

②活動をはじめたきっかけ Reasons of Starting Activities

私の息子が脳性マヒでラオスに施設がなかったため

My son had cerebral palsy, but there was no center for him in Lao PDR.







私の障害者自立支援活動(2)

My Activities (2)

③活動の課題 Main Difficulties

障害者支援のための資金が政府にはほとんどなく、
専門的知識を持った人材があまりいない。

Country is lack of technical expertise of local staff, limitation of financial resources .

④障害者を取り巻く環境をいかに改善していくか

What and how will you change the environment surrounding PWDs?

脳性マヒの子どもたちのための施設設立

スタッフと両親へのトレーニング

Found the institution providing more trainings for staff and families to take care of child.



私の障害者自立支援活動(3)

My Activities (3)

⑤活動中に勇気付けられたこと

What were you impressed or encouraged most in your activities?

➤ スタッフの熱い思い

➤ 大勢の子どもたちが
私たちの支援を必要としていること

The children who really need appropriate care, spirit of staff who are willing to keep going the project and the potential of possibility.



公益財団法人
難民を助ける会
Association for Aid and Relief, Japan



公益財団法人
難民を助ける会
Association for Aid and Relief, Japan



4) 今後の予定とメッセージ

Plan and Messages

<報告の流れ>

- 1) 自己紹介 Self Introduction
- 2) 出身国の紹介 About My Home Country
- 3) 私の障害者自立支援活動 My Activities
-  4) 今後の予定とメッセージ Plan and Messages



今後の活動について

①私の夢 My Dream

障害に関係なく

子どもと家族が将来に希望を持ってること

Children move forward in their mental and physical development in joyful life style with their families in the society without any barrier for them to be part of society.

②会場の皆様へのメッセージ Messages

弱い立場にいる子どもたちのために

皆様の力をかしてください

Express your own compassion and put your own effort to promote together

care system by participating in any relative activities to help these vulnerable children

